



海外事務所レポート

Art Expo New York 2026

北陸銀行 法人ソリューション部
ニューヨーク駐在員事務所
所長 安川 幸治

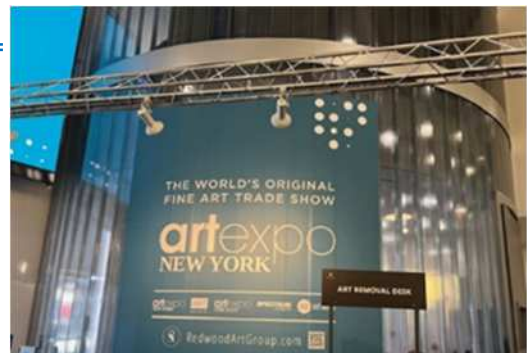
1. はじめに

2026年4月9日から12日の4日間、マンハッタン島南端に架かるブルックリン橋近くの「Pier36」で、全米最大級の美術イベント「Art Expo New York」が開催されました。

ニューヨークは世界の最新トレンド発信基地として、美術館やギャラリーが集積しています。そして、成功を夢見る世界中のアーティストも、腕を磨き活躍できる場を求めてこの街に集まってきます。世界トップクラスの作品が一堂に会する会場の様子をお伝えします。

2. Art Expo New Yorkとは

「Art Expo New York」は1978年に初開催され、2026年で第49回を迎えました。米国各地でアートに関するイベント・展示会を開催し、最新トレンド情報を発信するアートプラットフォーム事業を手掛ける「Redwood Art Group」が主催しており、会期中には毎回、約2万人もの来場者が訪れます。



Art Expo New York 入口(筆者撮影)

3. 出展者・展示作品の特徴

世界30カ国以上から、ギャラリーやアーティスト個人、コレクター団体など200以上の出展者が参加し、千数百点の作品が出品されました。一口に展示会といっても、コンセプトやターゲット層によって性格が異なりますが、Art Expo New Yorkは、一般コレクター、ビジネス関連バイヤー、デザイナー向けのオープンなトレードショーの色彩が強く、アートの初心者でも求めやすい価格の作品が陳列されていました。

2026年は「Global Symbiosis (グローバルな共生)」を底流に、パンデミック以降の人間関係の再構築や、自然界の摂理と人間のテクノロジーの融合を示唆する作品が目立ちました。

4. 活躍する日本人アーティスト

イベントには日本人アーティストの作品も多数出展されました。

中でも、「祈りアート」をテーマに共同出展された鈴木尚和氏とSOU氏らのチームは、「Best Solo Exhibitor (最優秀個展出展者)」を受賞しました。鈴木氏は造形作家・空間デザイナーとして、公共空間や企業へのモニュメントやオブジェ設置の実績が数多くあり、「自然と摂理」の観点から自然環境の神秘性や生命力を表現する作風で知られています。「月と引力」をテーマに単独でも出展し、見えない力で万物を引き付けるエネルギーや生命への作用に、人や社会を結びつける調和や融合を見出し、平和への「祈り」になぞらえる作品が紹介されていました。

一方、SOU氏の作品は、抽象的かつ幻想的な色彩の樹脂を幾重にも塗り重ね、浮き上がるような質感が魅力の作風です。フランスやスペイン、シンガポールなど世界中で個展や展示を開催し、注目されています。

さらに、女性作家MIDORI氏のブースでは、精巧な金属表面処理技術を用いステンレス素材の質感や艶やかさを存分に活かした鳳凰の作品が紹介され、優秀賞を獲得していました。元々家業が精密板金・溶接・表面加工を営む東京都内の中小企業とのことで、日本が誇る職人技、匠の術をアートに昇華させた繊細かつエレガントな米国人好みのメタルアートでした。



上写真: SOU氏の展示作品
下写真: MIDORI氏の展示作品
(筆者撮影)

5. おわりに (ニューヨークの求心力・発信力)

本イベントは商業的要素が強く、展示作品をその場で購入することもできます。こうした展示会は、芸術やエンターテインメントのハイエンドが競い合うニューヨークで、コレクターにとっては掘り出し物と出会うチャンスであり、作家にとっては国際的な評価を獲得しキャリアに箔がつく絶好の機会となる可能性があります。まさに『New York, New York』の曲の一節 “If I can make it there, I'll make it anywhere” (ここで掴んだ成果は世界のどこでも通用する) が現実味のある言葉なのだと実感しました。

<ご注意>

文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容についてはご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。